

再意見提出フォーマット

再意見提出者	有限会社パブリックアドレス
--------	---------------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの 今後の展望（2015 年ごろや 2020 年ごろのワイヤレスブロードバン ドのサービスイメージ、システム イメージなど）	無し
(2) ワイヤレスブロードバンドを 実現するための課題（周波数の確 保、国際標準化・研究開発の推進、 利用環境の整備）	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトスペースの有効活用について <ul style="list-style-type: none"> ・現在 770-806MHz の FPU 帯において運用されている A 型特定ラジオマイクは、今後、地上波 UHF 放送の未使用帯域、いわゆるホワイトスペースに移行することが可能であると考ええる。 ・欧米におけるワイヤレスマイクの TV 帯域での運用実績 <p>米国、及び欧州の多くの地域では古くより TV 放送帯域の未使用チャンネルを利用して業務用ワイヤレスマイクを安定運用しており、長年の実績がある。</p> ・ワイヤレスマイクは小出力 <p>ワイヤレスマイクは出力が比較的小さく、日本では 10mW、欧米でも 50-100mW 以下である。TV 放送の受信に与える影響範囲は比較的小さく、慎重な運用により干渉を避けることが十分に可能であると考ええる。</p> ・特定ラジオマイクに限定することで安全な運用が可能 <p>ホワイトスペースにおいて運用するワイヤレスマイクを、A 型特定ラジオマイクと同様の扱いとすることを提唱する。特定ラジオマイクのユーザーには放送との干渉防止に配慮しつつ安全な運用を図る高い意識が期待できる。</p> ・特定ラジオマイクの 20 年の運用ノウハウを活用し干渉回避 <p>ホワイトスペースにおいても、特定ラジオマイク利用者連盟による運用調整を行うことで、現在と同様に安全な運用が可能と考える。地域ごとの利用可能チャンネルの情報提供を同連盟がおこなうことも可能だろう。</p> ・将来のホワイトスペース・デバイスとの共存のために <p>特定ラジオマイク利用者連盟の運用調整システムは、既に 20 年の実績のある「ロケーションデータベース」である。</p> <p>これをさらに高度化、自動化し、今後ホワイトスペースへの導入が予想されるワイヤレスブロードバンド・デバイスのロケーションデータベースと連</p>

	<p>動させることにも可能と考える。</p> <p>・ワイヤレスマイクにも国際協調を 海外からの来日公演を実施するような著名な音楽家にとって、ワイヤレスマイクは楽器と同様であり、別機種への代替えは困難である。仮に、日本だけが諸外国とかけ離れた帯域（例えばGHz帯）へ移行すると、日本の限られた市場規模では開発コストが高くつき、需要に合致した製品が供給されない可能性が高い。</p> <p>欧米と同じ帯域でワイヤレスマイクを運用すれば、海外製の器機を周波数の簡単なローカライズだけで導入出来る。</p> <p>同様の理由から出力についても、欧米と多くの地域と同様に50mWから100mWの出力が認められるべきと考える。</p>
(3) 関連する国内外の動向と課題	無し
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	

複数のサービスやシステムについてご回答される場合は、それぞれ別々のフォーマットに記入してください（できるだけイメージ図等を加えてください。）。

意見募集において寄せられた意見に対する意見

No.	意見提出者	寄せられた意見に対する意見内容